

空港容量と競争

航空需要が高まり、特に人口が集中する都市部では空港の拡張が困難となる中、希少な滑走路容量の管理は航空分野における最も差し迫った政策課題の一つである。現在用いられている空港発着枠（airport slots）の配分方法は、既存の航空会社を固定化し、競争を制限し、一部の空港容量が未使用のまま残されているとの批判を受けている。その結果、旅客、新規参入航空会社及び路線の接続性に実質的な損失をもたらしている。

本報告書は、混雑した空港における異なる発着枠の配分方法が競争及び接続性にどのような影響を与えるのか、また空港発着枠の調整により、環境により良い成果をもたらすことができるのかを検証する。その上で、希少な空港容量の配分方法をより強く管理しようとする政府のための改革案を提示している。

本報告書では、世界空港発着枠ガイドライン（Worldwide Airport Slot Guidelines (WASG)）に基づく行政的な発着枠調整と、スロット・オークション（slot auctions）やスロットの二次取引を含む代替的な手法とを比較している。改革案には、既得権（grandfathering）ルールの部分的な見直しから、全面的なスロット・オークションの導入まで含まれる。本報告書は、特定の解決策を推奨するものではなく、それぞれのトレードオフを整理し、各国政府がより十分な情報に基づいて判断できるようにすることを目的としている。

本報告書は、ITF の「空港容量と競争」ラウンドテーブルの討議を基にした。

政策提言

- 発着枠配分の改革は、空港運営の効率を最大限に高め、既存空港内に収容可能な発着枠数を増やすための協調的な取組により行われるべきである。
- 政府は、空港容量管理の改革に対して、より積極的なアプローチを取るべきである。
- 行政的な発着枠調整ガイドラインをさらに見直すことで、混雑した空港におけるインフラ利用の効率化及び市場参入機会の拡大が期待できる。
- 発着枠調整担当は、調整結果の経済効率性を高めるため、配分プロセスに価格シグナルを含めるべきである。
- 政府は、発着枠配分を環境保護等の他の政策目標と結び付ける際には慎重でなければならない。
- 改革は、混雑した空港の多様性を考慮し、独特の規制上のニーズに適応できるようにすべきである。

本資料（仮訳）は OECD 国際交通フォーラムが翻訳したものではないため、OECD 国際交通フォーラムの公式翻訳とはみなされない。原文と仮訳の間に相違がある場合は、原文のみが有効である。